

神戸オックスフォード日本学プログラム (KOJSP) とは

このプログラムは、神戸大学文学部がオックスフォード大学東洋学部との協力関係の元に進めている、日本学に関する教育研究プログラムです。平成23(2011)年3月にオックスフォード大学東洋学部と学術交流協定を締結し、平成24年10月から同学部日本学科2年次生全員(12名)の受け入れを開始し、1年間にわたって日本語科目と日本学を中心とする専門授業科目に参加させることになりました。

このプログラムの最大の特徴は、オックスフォード大学における4年間の正規の教育課程のうち、第2学年次の1年間を神戸大学が担う点です。言うまでもなく、オックスフォード大学は世界屈指の大学です。その大学の日本学専攻学生の教育の重要部分を担う本プログラムは、極めて有意義なプログラムと言えます。



様々な課外活動

プログラムには、実地研修(奈良フィールドトリップ、グローバルクリエイティブ・ラーニング in 広島)、留学生フォーラムでの日本語による発表会、書道教室、県内の一般家庭での一週間程度のホームステイ、地域の祭りや農作業体験、年によって歌舞伎鑑賞、文楽体験や能楽ワークショップ・各種イベント等への参加等が含まれています。日本文化に広く接し、都会と田舎の違いや、伝統文化・現代文化の多様な側面に接触することができる、充実した内容となっています。こういった課外活動は、クラスで行われる日本語学習を補充するものとして、または日本文化や日本社会への理解が深まるものとして、重要な役割を果たしています。

文学部生との交流

参加学生には指導教員と同じ研究分野の学生を、チューターとして一名ずつ割り当てています。これによって、その研究室等において日本人学生との相互交流がスムーズに行えるようにしています。また文学部で、日本人学生に交じって講義や演習に参加することは、日本人学生との良い交流の機会となっています。こうした学習面での交流だけでなく、様々な研究分野の学生と自由に交流できるインターナショナル・アワー(IH)を、定期的に開いています。さらに、日本人学生と留学生が共に生活する寮に住み、そこでの交流も行われるほか、大学のクラブ・サークル活動におけるスポーツや文化活動を通して、他学部の学生との多様な交流も行われています。



KOJSP生の声

最初の学期は日本の生活にまだ慣れていなかったため、文学部が企画してくれるイベントや旅行に行くのが、気軽に楽しい日本発見の機会となりました。もっと自信ができてきたから、文学部のリラックスした雰囲気や、ダジャレを許してくれる先生方はありがたいです。

この頃では、留学生センターから神戸の街並みを眺めると、懐かしい気持ちさえ感じるようになってきました。偽物イギリス料理を売る店のある三ノ宮。いつもおしゃれな阪急電車。六甲アイランドのクレーンの赤いライト。

KOJSPチューターの声

私は一回生の時にオックスフォード夏季プログラムに参加したきっかけで、KOJSP生のチューターを始めました。チューターの仕事は主に留学生の日本での生活や日本語学習をサポートすることです。サポートと一口に言っても、それは多岐に渡ります。勉強面ではもちろんのこと、慣れない日本での一年という長期滞在で不安を感じている時は相談に乗ります。彼らと親交を深めていくうちに、日本にいなからイギリスの若者文化を知ることが出来ました。同時代で共通点も多いですが、やはり文化差は存在します。文化差はどの国にとっても難しい課題ですが、最後にはそれを乗り越えて個人として相手と向き合えるようになるのがこの仕事の魅力だと思います。

神戸大学文学部から

2012年に開始されて以来、KOJSPは神戸大学文学部にとって非常に重要なプログラムになっています。毎年約12名の学生が神戸大学生と同じキャンパスで学び、様々な形での交流が行われています。インターナショナル・アワーなど他大学からの留学生をも交えた様々な行事も行われるようになり、文学部内で国際交流への関心が増えています。学生の間でも、チューター活動を通じたKOJSP生との出会いがきっかけでオックスフォード大学夏季プログラムへ参加する学生も少なくありません。日本語や日本文化に深い関心を示すKOJSP生と接することで、自国の文化や言語をあらためて見直し、理解を深めようとする日本人学生がいることも喜びです。



芦津 かおり
准教授

また、このプログラムをきっかけにして、オックスフォード大学との間で教員研究者レベルでの交流も行われるようになりました。KOJSP修了生も、日本で就職したり、大学院で研究を続けたりして、広く貢献をし始めています。このプログラムは文学部本部や文学部同窓会、地域の方々からの支援・協力のもとに行われていることも見逃せません。今後とも多くのの方々との協力のもとにこのプログラムが続けられていくことを願っています。

神戸オックスフォード日本学プログラム 神戸大学文学部

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

▶ホームページでも、KOJSPについて詳しく紹介しています。

神戸大学文学部 KOJSP HP <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/graduate/kojsp.html>

KOJSP FACEBOOK <https://www.facebook.com/KOJSP-315116381939237/>

KOJSP



KOJSP

Kobe-Oxford
Japanese Studies
Programme

KOJSP の特徴



KOJSP 日本語演習

参加学生は、全員日本語専攻の学生で、それに合わせた授業を履修します。必修科目として日本語演習を毎週5日午前中2コマ履修し、日本語の運用能力を高めます。また、2つの習熟度別クラス (I・II) に分けられ、それぞれの能力に合ったテキストと応用的な学習が行われています。クラス活動以外に、たとえば日本人学生へのインタビューも含めた実習も重視されています。2月に日本語演習合同発表会が行われ、1クラスとIIクラスの学生が合同で発表します。修了時の8月には、KOJSP修了発表会が行われ、オックスフォード大学の先生をはじめ、神戸大学学長や文学部の先生や学生の前で、参加学生は、それぞれが選んだテーマについて日本語で成果発表をします。



文学部の専門科目

文学部が開講する様々な専門科目のうち、プログラム用に設定された専門科目を10単位、各自の関心に合わせて自由に履修できるようにしています。履修可能科目は、国文学、英米文学、ヨーロッパ文学、中国文学、日本史学、東洋史学、西洋史学、社会学、地理学、美術史学、芸術学、言語学、心理学、哲学などの諸分野にわたっています。日本の言語、文学、歴史について学ぶほか、一部の授業では奈良、広島などへのフィールドトリップが行われ、効果的な実地学習が行われています。留学生向けに開講されている演習では、古今の簡単なテキストを日本語で読んでいます。また分野によっては、英語のほかフランス語やドイツ語のテキスト講読もあり、それらの言語をすでに習得している学生にとって、欧文テキストを日本語に翻訳する訓練の場となっています。

オックスフォード大学東洋学部から

2012年10月、最初のオックスフォード大学日本学専攻の学生が、神戸オックスフォード日本学プログラムに参加するために神戸大学に到着しました。これは、オックスフォード大学東洋学部学士課程の大きな改革によるもので、2年次の日本学専攻学生全員が神戸大学で一年学ぶことになったのです。以前の学士課程プログラムには丸一年の日本滞在が含まれていませんでしたので、これは大きな変化と言えるものでした。私たちはこの新しい展開に興奮を覚えると同時に、どんな変化にも未知の出来事が伴うということを覚悟していました。

しかし、不測の事態に対して私たちが抱いていた不安は根拠のないものでした。学生たちは、オックスフォードでの一年間の集中学習を終えてから、自分たち用に作られた神戸大学でのプログラムに参加します。一年後には非常に高い言語運用力と、現代日本における生活を肌で感じた経験、そして神戸大学に対する強い感謝の気持ちとともにオックスフォードへ戻ってきます。学生は全員、日本そして神戸大学で過ごした時間を楽しみ、大いに恩恵に浴しています。そして神戸から帰国したオックスフォード生は、まさに万全の状態で、その後二年にわたるオックスフォード大での厳しい学問研究に向き合うことができるのです。

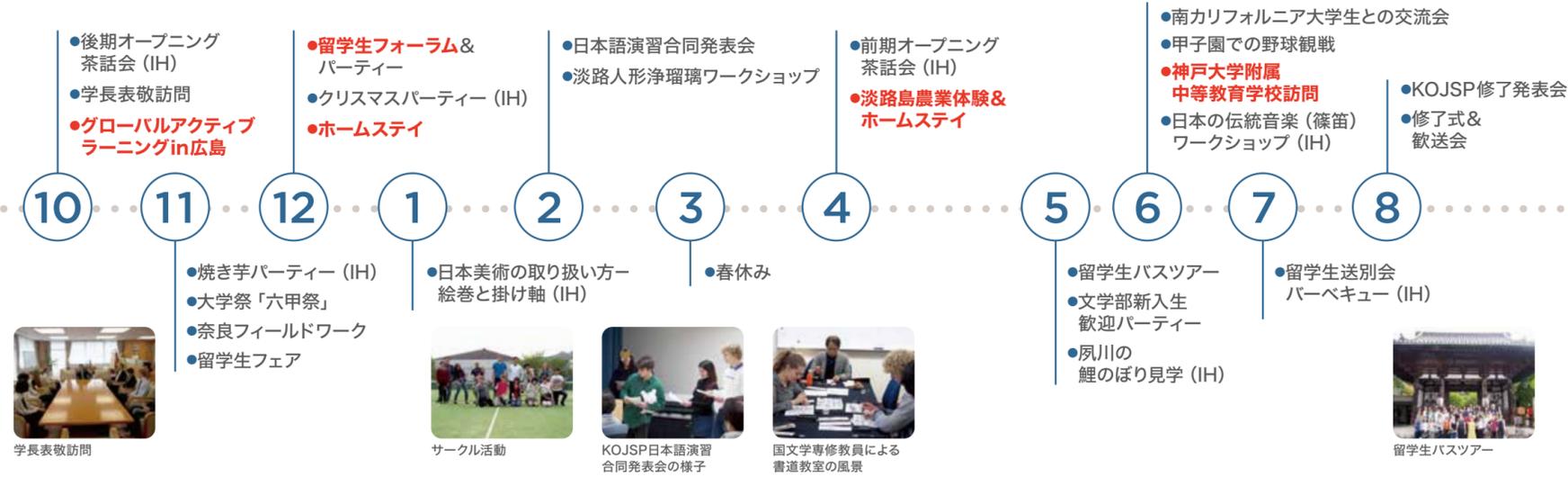


ピヤーク・フレレスビグ 教授

オックスフォード大学生として過ごす4年間



神戸大学での1年間 (5期生のイベントスケジュールの例)



イベントを体験して

10月 グローバルアクティブラーニングin広島

広島平和記念公園や広島平和記念資料館に訪問した後、私たちはグループに分かれて広島市の地元の方々とおバマ氏のスピーチに関して話し合い、それから意見を発表しました。ディスカッションのレベルは高く、多くの面白いアイデアに出会うことができましたし、自分の考えを磨き深めることもできました。オバマ氏のスピーチを細かく読み、その含蓄を分析したり、オバマ氏が現在の核兵器所有の状況に実際どれだけ批判的なのかを考えたりするのは、とても有益なことだったと思います。

12月 留学生フォーラム

秋学期の留学生フォーラムで環境問題について発表させてもらったおかげで地球環境問題への理解を深めることが出来ましたし、日本語で話す自信もつきました。特に気に入ったのは、発表後に先生方や学生たちとディスカッションをする時間が設けられたことです。そのディスカッションによってさらなる情報と考える糧を得ることができました。また、みなさんのプレゼンテーションを聞いて、自分が地球で生活する人間として、これからのように自然環境と付き合い合っていく責任があるのかを考えました。一人一人が地球環境に与える影響を軽減するような生活を心がけることは非常に大切だと思いました。

12月 ホームステイ

知らない人たちと一週間も暮らすのは不安だったので、最初はすこし緊張しました。でも、そんな心配は無用でした。ホストファミリーは神戸大学に近い六甲アイランドに住んでいて、とても優しい人たちでした。私の前にも多くの留学生を受け入れていて、それも大きな安心材料でした。ホームステイの良い点は、ありのままの日本の生活を体験できるということです。交換留学生や観光客としてはできないようなこともたくさん経験できましたし、ようやく (!) 本物の和食を食べることもできました。とにかくホームステイはすこし楽しかったですし、ホストファミリーとは今も連絡を取っています。

4月 淡路島農業体験とホームステイ

今年の四月、私たちは淡路島でホームステイを体験しましたが、とても楽しかったです。まず地元の農場を見学し、人参を採って洗う作業を手伝いましたが、なぜかやみつきになりそうでした。その後、弁当を食べてから、ホームステイの家族に迎えてもらいました。私のホストファミリーは本当に優しく、イギリスにも興味津々、4歳のお嬢ちゃんはとても面白かった。その夜はバーベキューと花火をしてみたい、次の日には皆で遊園地と伊弉諾神社に行きました。淡路島ホームステイは本当におすすめです。

6月 神戸大学附属中等教育学校訪問

6月14日に神戸大学附属中等教育学校に行つて、高校生の皆さんの前で環境問題について日本語で発表しました。KOJSP生はみな緊張していたと思いますが、発表はとも上手く行きました。私たちの発表の後に、今度はKUSSの高校生たちが、英語で環境問題について発表しました。皆さんの英語が上手いのは本当に感心しました。その後、KUSSの高校生の授業に参加して、日本語と英語を交えながら環境問題などを皆で議論しました。面白い意見や考えがたくさん出されて、たいへん勉強になりました。

1月1回 インターナショナル・アワー

インターナショナル・アワーは、おいしい焼き芋などを食べながら先生やチューターと一緒に楽しく話せる時間でした。鯉のぼりを見に行った時と絵巻を見せてもらった時は特に楽しかったです。でも、みんなと喋れるということがなにより良かった。この機会がなかったら、たぶん自分たちからこういう時間を作ることはなかったと思います。でも、それは残念です。ですからインターナショナル・アワーがあつて良かったですし、これからも続けてほしいと思います。私たちが楽しめるように計画してくれた先生や学生さんたち、ありがとうございます。

KOJSP 修了発表会

春学期 (後半期: 4月よりスタート) には、KOJSP 日本語演習とは別に、各自が日本に関する様々な問題からテーマを選んで研究する、「KOJSP 演習」という課題演習授業に参加します。指導教員や KOJSP 演習のアドバイザーの先生方、学生チューターと共に、日本の社会・歴史・文化などについて多岐にわたる研究を進め、8月上旬の修了式でその成果を日本語で発表します。その研究課題は、オックスフォード大学での卒論研究につながっているという実績があります。2016年から「KOJSP 修了論文集」も作成されるようになり、各自が取り組み、一年間を通して得た研究成果を、口頭発表の形だけではなく、具体的な形で残すことになっています。



- ▶ KOJSP 演習での発表課題の例
- 「武士道に関する考え方の変遷」(2期生)
- 「翻訳をめぐる諸問題について」(3期生)
- 「日本人と鶏の関係」(4期生)